



# Migration Toolkit for Runtimes 1.0

## リリースノート

新しい機能、既知の問題、および解決済みの問題



# Migration Toolkit for Runtimes 1.0 リリースノート

---

新しい機能、既知の問題、および解決済みの問題

## 法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

このドキュメントでは、Migration Toolkit for Runtimes バージョン 1.0.0 - 1.0.2 の新機能、既知の問題、および解決された問題を説明します。

目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化 ..... 3

第1章 はじめに ..... 4

第2章 MTR 1.0.2 ..... 5

    2.1. 新機能 ..... 5

    2.2. 既知の問題 ..... 5

    2.3. 解決した問題 ..... 5

第3章 MTR 1.0.1 ..... 6

    3.1. 新機能 ..... 6

    3.2. 既知の問題 ..... 6

    3.3. 解決した問題 ..... 6

第4章 MTR 1.0.0 ..... 7

    4.1. 新機能 ..... 7

    4.2. 既知の問題 ..... 7

    4.3. 解決した問題 ..... 7



## 多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#)をご覧ください。

## 第1章 はじめに

Migration Toolkit for Runtimes (MTR) は、JBoss Enterprise Application Platform (EAP) 7 から 8 への移行や、他のアプリケーションサーバーから EAP への大規模な移行など、Java アプリケーションの移行とモダナイゼーションを簡素化する、拡張可能でカスタマイズ可能なルールベースのツールを提供します。MTR は、Migration Toolkit for Applications 5 リリースで提供されるものと同じ移行ソリューションを提供します。

これらのリリースノートは、MTR 1.0 のすべての z-stream リリースを対象としており、最新のリリースが最初にリストされています。



## 第2章 MTR 1.0.2

### 2.1. 新機能

このセクションでは、Migration Toolkit for Runtimes (MTR) 1.0.2 の新機能を説明します。

#### 新しいルールセット

MTR に、EAP 8 および Hibernate 6 に移行するユーザーをサポートする新しいルールセットが追加されました。

### 2.2. 既知の問題

既知の問題の完全リストは、Jira の [MTR 1.0.2 の既知の問題](#) 一覧を参照してください。

### 2.3. 解決した問題

本リリースで解決された問題の完全リストは、Jira の [MTR 1.0.2 解決済みの問題](#) 一覧を参照してください。

## 第3章 MTR 1.0.1

### 3.1. 新機能

このセクションでは、Migration Toolkit for Runtimes (MTR) 1.0.1 の新機能を説明します。

#### Jakarta Faces 4.0 の新しいルールセット

MTR には、JBoss EAP 8 への移行のサポートを改善する Jakarta Faces 4.0 の新しいルールセットが含まれています。

### 3.2. 既知の問題

既知の問題の完全リストは、Jira の [MTR 1.0.1 の既知の問題](#) 一覧を参照してください。

### 3.3. 解決した問題

本リリースで解決された問題の完全リストは、[MTR 1.0.1 解決済みの問題](#) の一覧を参照してください。

## 第4章 MTR 1.0.0

### 4.1. 新機能

このセクションでは、Migration Toolkit for Runtimes (MTR) 1.0.0 の新機能を、Migration Toolkit for Applications (MTA) 5.3 と比較して説明します。

#### 追加の移行パス

MTR 1.0.2 では、新しい変換ターゲットを使用できます。

- OpenJDK 11 から OpenJDK 17
- Azure App Service への EAP および Spring Boot アプリケーション
- Java EE 8 から Jakarta EE 9
- EAP 7 から EAP 8 (ベータ)

#### Java EE 8 から Jakarta EE 9 への変換を自動化する Openrewrite レシピ

Openrewrite レシピは、以下を自動化します。

- **pom.xml** ファイルで宣言された依存関係の置き換え
- パッケージのインポートステートメントの置き換え
- XML デプロイメント記述子の更新
- 設定プロパティの更新
- SPI ファイルの名前変更

#### pom.xml 分析の改善

MTR は、親、dependencyManagement、依存関係、pluginManagement、およびプラグインブロック内のアーティファクトを検索できます。

#### YAML ファイルソースコードレポート

ソースコードレポートは YAML ファイルと互換性があるため、検出された YAML ファイルのコンテキストで、移行の問題を強調表示できます。

#### トランザクションレポート (テクニカルプレビュー)

アプリケーション分析レポートで新しいトランザクションレポートを利用できるようになりました。この新しいオプションは、アプリケーションデータ層を分析し、トランザクションがさまざまな層にどのように伝播するかについて詳細な情報を提供します。このレポートは、一連のサービスエントリー、コールグラフ、および SQL ステートメントとして情報を表示します。

### 4.2. 既知の問題

既知の問題の完全リストは、Jira の [MTR 1.0.0 の既知の問題](#) 一覧を参照してください。

### 4.3. 解決した問題

本リリース時点では、以下の解決済みの問題が、重要な問題として特定されました。

表4.1 主な解決済みの問題

ID	コンポーネント	概要
<a href="#">WINDUP-3227</a>	MTR CLI	タグ関連の CLI 引数 <b>--includeTags</b> および <b>--excludeTags</b> が正しく機能しません。
<a href="#">WINDUP-3482</a>	MTR Web コンソール	Web コンソールは、アプリケーションに存在するパッケージを検出できず、ユーザーがプロジェクトを作成できません。
<a href="#">WINDUP-3312</a>	なし	<b>DiscoverHardcodedIPAddressRuleProvider.java</b> は、Java クラスでハードコーディングされた IP アドレスを検出しません。

本リリースで解決された問題の完全リストは、[MTR 1.0.0 解決済みの問題](#) の一覧を参照してください。